

僕は人と接することが苦手で、嫌いでした。

もともとやりたいことが言えない内向的なタチで、それもあって中学校に通わなくなりました。高校も入学したはいいものの、同じように行かなくなりました。そして、このゆいまーる学園へと入学しました。

入学したのは一年生の秋。通学するのに、同じ高校生が乗ってる電車に乗ることがイヤでした。教室に着いても、周りの目を気にする僕は、まともに自分から他の生徒に話しかけようせず、壁を作っていました。休み時間になれば決まって読書、一日の授業が終われば足早に帰宅。あまりに早く帰って行ってしまうため、先生と親に心配されていたようです。しかしそんな心など当時は知らず、延々と同じことを繰り返す毎日。気づけば一年以上そんな状態でした。

二年生も終わりに差し掛かった頃。そのころ入学してきた新入生に話かけられたのが、変化のキッカケでした。僕と真逆で、誰にでもフランクに接していた彼は、分厚かったろう壁を無視するかの如く、話しかけてきました。最初は多少恐れながらも、探り探り淡々と言葉を返していましたが、段々と話すうちに共通の話題も見つかり、「会話」が成立し、徐々に打ち解けるようになっていきました。それから少しずつ他の生徒とも話すようになっていきました。こんな極普通のことを行うのが、僕には遠い道のりでした。

三年生になって新しい友達も増え、キャンプへ行ったり、旅行へ行ったり、メンバーが変わりながらも、楽しいことも辛いことも沢山あり、色々なことが学び経験できた、いい三年間でした。

今では、人と接することが嫌いではありません。接することが苦手なタイプの人はいませんが、以前よりも前向きに接することができるようになりました。

支えてくれた先生、友人、両親、本当にありがとうございました。今なら前より胸を張って旅立ってます。お父さんとお母さんは、もうちょっと面倒みてください。

この先の大学生活では、この三年間で見つけた「やりたいこと」に向かい、良好な人間関係を築いていきながら、邁進したいと思います。